

視察 1 道の駅 木更津 うまくたの里

(1) 施設概要

【開設】平成29年10月20日			
【場所】首都圏中央連絡自動車道木更津東ICと国道410号が接続する近接地			
【規模】建築面積：約1,300㎡ 敷地面積：約9,500㎡			
【事業手法】DBO方式			
<table border="0"> <tr> <td>資金調達：市</td> <td>設計、建設：市+民間</td> <td>運営：民間</td> </tr> </table>	資金調達：市	設計、建設：市+民間	運営：民間
資金調達：市	設計、建設：市+民間	運営：民間	
【運営代表事業者】株式会社TTC			

(2) コンセプト・特徴

<p>【コンセプト】海の向こうを夢見続けた万葉の思いを未来に伝える ～馬来田の国の魅力伝承館～</p> <p>【特徴】・6次産業化の推進 ・道の駅を核としたグリーン・ツーリズム(※)への展開 ・女性の活躍の場の拡大</p>

※グリーン・ツーリズムとは、自然や文化、人々との交流を楽しみ、余暇をのんびりと過ごすことをいう

(3) 管理運営

運営代表事業者	株式会社TTC
契約形態	指定管理 15年 ※5年ごとに市のチェックあり
指定管理料 (市からの支払い)	2,900万円上限/年
市の収入 (事業者からの支払い)	売上金額に契約割合を乗じた額
直近の来客数及び売上げ (H29.10~H30.9)	来客数 約64万人/年 平均約1,700人/日 売上げ 約8億円/年 平均約220万円/日
販促の工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・集客イベントの実施(例：収穫祭、魚祭り、一周年祭) ・販促チラシの配布(月1回程度) ・SNSの活用(1日1回は必ず投稿)

(4) 地元とのかかわり方

<ul style="list-style-type: none"> ・農業、観光、商工団体、地域のまちづくり協議会、生産者等で構成する「木更津市道の駅活性化協議会」を組織し、市及び指定管理者と連携を図り、地域振興に取り組んでいる。 ・地域行事への参加(地元納涼大会、コスモスフェスティバル、マラソン大会等へ出張販売) ・出荷している地域の生産者を店舗内で紹介している(顔写真)。

(5) 視察写真



【農産物直売所】

- ・現在の生産者は280名、内70~100名が常時出荷している。
- ・商品の9割強は生産者から仕入れ、無い商品は公設市場から仕入れている。
- ・価格は基本的にそれぞれの生産者と決定する。
- ・販売手数料は市内在住か市外在住かにより異なる。また、生鮮品か加工品により異なる。







【店内ディスプレイ】

- ・特産品であるブルーベリーやピーナッツを中心に加工品が充実している。
- ・店内で一番売れる商品は加工品である。
- ・市内の事業者のほか、指定管理者が商品開発に携わり、多くの商品点数を確保している。
- ・従業員による陳列方法の工夫、マイクパフォーマンス、試食販売等に力を入れている。

【レストラン】



出典：道の駅HPより

- ・地元で人気の「のうえんカフェ」と「せんねんの木」のプロデュースによるレストラン
- ・地元の野菜が主役の料理等の提供

【モニュメント】



#おナッツ

- ・入口に特産品のピーナッツのモニュメントを設置。写真スポットとなっている。

視察 2 道の駅 いちかわ

(1) 施設概要

【開設】平成30年4月7日
【場所】国道298号接道地
【規模】建築面積：約1,700㎡（地域振興施設） 敷地面積：約17,000㎡（うち市整備部 約3,600㎡）
【整備手法】一体型 地域振興施設：市 駐車場・トイレ棟：国 運営：民間
【運営代表事業者】市川未来創造グループ

(2) コンセプト・特徴

【コンセプト】人々が集う 活力とにぎわい・情報発信の都市型道の駅
【特徴】
・交流の拠点としてのカルチャー教室の運営
・民間事業者のネットワークを活用したレストランの展開

(3) 管理運営

運営代表事業者	市川未来創造グループ
契約形態	指定管理 10年（平成30年4月1日～令和9年3月31日）
指定管理料 （市からの支払い）	0円
市の収入 （事業者からの支払い）	1,920万円の定額納付（月160万円）に加え、 想定利益を上回った場合は上回った額の50%を更に納付
直近の来客数及び売上げ （H30年度）	来客数 約107万人／年 平均約3,000人／日 売上げ 約5.4億円／年 平均約150万円／日

(4) 地元とのかかわり方

<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所は直接施設の運営等に関わってはいないが、指定管理者の代表企業が商工会議所会員に加入するなど、協力・連携できる体制となっている。 ・市内にJAの店舗があり、施設と直接関わることはないが、JAが主催する農薬の講習会を農産物直売所に商品を卸す事業者案内するなど、協力している。 ・カルチャー教室の講師は、地元を中心に募集している。 ・「市川市の商品が一番あるのはここ」と言ってもらえるような施設を目指し、道の駅を介して地域を知ってもらいたいと考えている。市川市のアンテナショップを目指している。 ・来場者の中に学生や高齢者、子育て中の母親同士なども見受けられ、地域の方の集いの場としても機能していると思われる。
--

(5) 視察写真

【農産物直売所・物産館】



- ・他で出回っていない野菜（イタリア野菜等）を扱っている農家がいるため、それが特徴になっている。
- ・野菜が少ない時期は品不足対策として市外からの仕入れを試みたが売れ行きが良くなかった。地元野菜を求める来場者のニーズを実感し、市川市産の野菜にこだわり販売している。
- ・販売手数料は市内事業者と市外事業者とで異なる。指定管理者の冷蔵ケースを使用する事業者には、電気代として追加の手数料がかかる。
- ・千葉県の玄関口に立地することから、市内産に加え、県内産に加工品も多数揃えている。

【レストラン】



- ・日本イタリア料理協会の副会長でもある原宏治氏が手がける本格イタリアンレストラン日本橋浜町の名店「アルポンテ」の姉妹店「トラットリア・アルポンテ」が出店

【カルチャースクール】



出典：道の駅 HP より



- ・カルチャースクールの生徒は市内外から幅広く募集
- ・ヨガやダンス、子ども向けの教室等、様々な講座を実施

【駐車場】



- ・駐車場は大型車のスペースが多い。
- ・週末はかなり混み合っており、駐車スペースが足りないこともある。

【フリースペース・キッズスペース】



- ・カフェスペースの隣にフリースペースを設置
- ・靴を脱いで遊べるキッズスペースがある。